

モモ 2030年1月から4月までの活動報告

☆文字を書く

モモをスタートして半年が過ぎ、通っている子どもたちはそれぞれに課題を克服しつつ成長していったように思います。モモを始める以前、私は、シュタイナー教育の理論について研究してきましたが、実践研究を通じて、あらためてこの理論のすばらしさを日々実感しています。そのことをもっとも感じたのは、学校に通うことのできなかったある児童の指導を通じてです。

この子は、幼少期から心臓を患い、それが原因で学校になじめずに小学校にはほとんど通っていません。そのため2年生で通所し始めた当初は文字もほとんど読めず、書くことはまったくできませんでした。しかも、モモの「創設当初の活動記録」に書いたように、勉強を始めると聞いただけでトラウマからか過呼吸を引き起こすほどでした。

このようなスタートでしたので、私たちはその児童に対して機械的な暗記やドリルはまったく行わず、シュタイナー教育が実践するように、絵や身体の動きから文字の理解を試みました。この方法がその子にあったようで、「これが勉強なら楽しい!」と言って、「あ」から「ん」まで数ヶ月かけて学んでいきました。この効果もあり、ひらがなやカタカナはすべて読め、漢字も、漢字の成り立ちカードを利用して少しずつ読めるようになっていきました。

しかし、問題は「文字を書くこと」でした。その子は高い記憶力や理解力をもっていたので、なぜか文字だけが書けないのか、初め私には分かりませんでした。手を取って何度も文字の形を示しましたが、それでも形を上手に書くことができません。そこで私は彼の成育歴からもう一度考え直しました。

沈思した結果、私は、彼が身体形成の基盤期に当たる幼少期に心臓の病のため長期に入院し、胸や腕の周りの筋肉を十全に動かせなかったことにあったと考えるに至りました。具体的には、頭でのイメージが神経を通して肩や胸や腕の筋肉に連動していないのではないか、と思うに至ったのです。

その課題を克服するためには、シュタイナー教育で行われる、①シュタイナー派が行う**身体の原初体験を回復する練習「エクストラ・レッスン」**、②**イマジネーションと身体の動きを結びつける形態・線描活動「フォルメン」**と、③**音を可視的に表現する身体運動「オイリュトミー」**が有効ではないかと考えました。これらの活動を通して、四肢の十全な動きや全身のバランス感覚が整って文字を描くように書けるようになると思ったのです。

まず、①の「エクストラ・レッスン」から説明しましょう。この練習では、幼少期に本来形成されるべきであった身体の動きを回復させることをめざします。多くの子どもたちは子育ての容易さから、バランスサーに寝かせたり、歩行器で歩かせたり、すぐに抱っこしたりします。しかし、シュタイナー教育では子どもが自分の力で重力に逆らい徐々に、「寝返り」、「腹ばい」、「四ばい」、「つかまり立ち」を経て「立ち上っていく」プロセスそのものを重視します。重力に逆らって背骨を立てるまでの苦労は乳幼児にとって並大抵の苦労では

ありません。しかし、そうやって子どもが立ち上がる姿を思い起こしてください。子どもは自力で立ち上がったとき、すばらしい笑顔を見せます。シュタイナーは、このとき「自我が輝き始める」と言います。背骨が立つとき、人間として、その人らしさが発揮し始めるのです。

このことをふまえるとき、心臓を患い寝ている時間が長かったその子にとって、このプロセスを可能な限り体験させることが必要であると考えました。他の子どもたちも同様に、十全な身体のバランスを回復するために、私たちは毎日、活動の初めに、様々な身体運動に取り組んでいます。写真で紹介してみましょう。

① 身体の原初体験を行う





左右・前後・上下の動きに加え、回転運動も行います。とりわけ、自我の発達を促す場合は、「右回りの動き」と「上から下の動き」を多く行います。

また、四肢を十分に動かし、バランス運動をおこなうことは、「言語の発達」や「空間認識の発達」を促すことにつながります。



② フォルメン（形態・線描体験）を行う

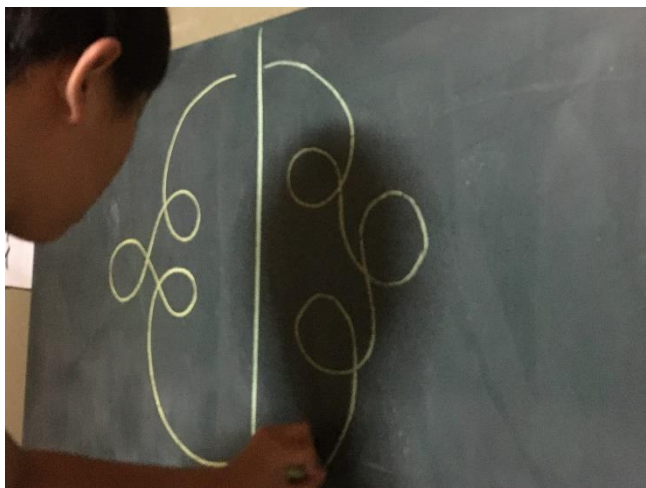
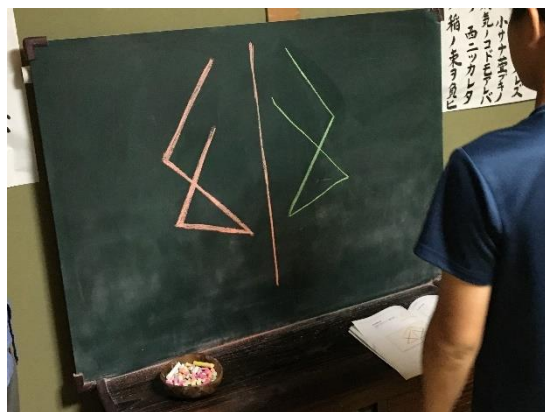
この活動では、子どもたちの心身の発達に合わせた形態体験を行います。古代から、図形が人間に力と意味をもたらすことは知られていました。いまでも私たちの周りに、文化として、デザインとして様々な紋様を周囲に見出すことができます。シュタイナー教育では、教育にこうした形態体験を取り入れ、心身のバランスを整えていきます。それは単に手で線を描くだけではなく、目や体を動かし、線を心身全体で感じとり、表現していきます。活動の写真を通してその様子を紹介していきましょう。



小さな子は「模倣」によって学びます。

ここでは線は「上から下に」、円は「右回りに」描く例を示しました。

小学生には、発達に合わせて必要な線描体験をしてもらいます。

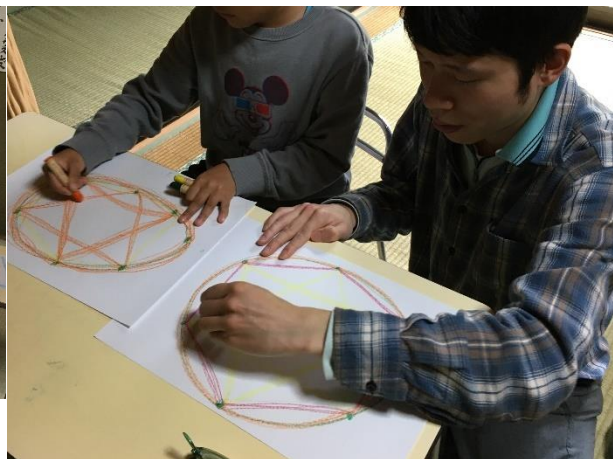


右回りの渦巻きやレムニスケートは身体運動もあわせてよく取り組むフォルメンです。



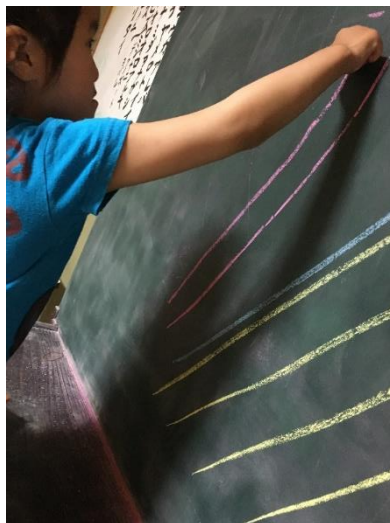


線に沿って目と腕を大きく動かしたあとに、線描体験を行います。



五芒星や六芒星は古代から力をもつ図形として文化的にも理解されてきました。六芒星は、円周を六等分した点を起点に描きます。

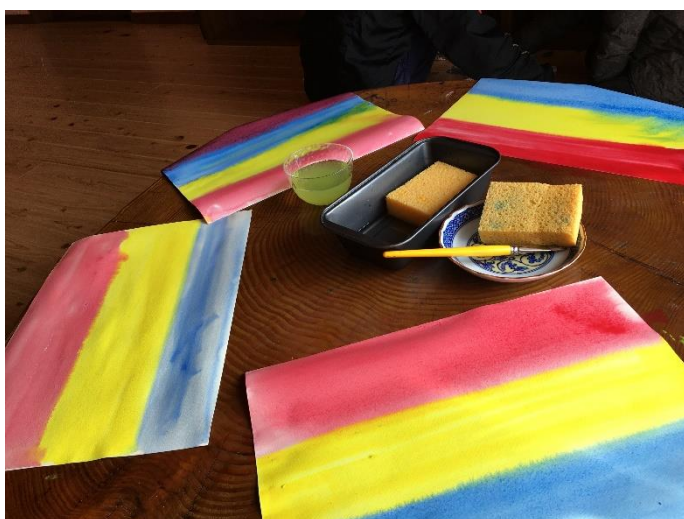
小さな子どもは、線で遊ぶ感覚を大切にして取り組みます。



初めは水につけた手のひらで黒板に描き、つぎに、水を含ませた筆で描いていきます。



描いた形に色を塗ったり、色そのものを体験したりします。



③ オイリュトミーを行う

オイリュトミーとは、音が持つ力を言語と身体によって表現する身体芸術で、シュタイナーとその妻マリー・シュタイナーによって作られた身体芸術です。私たちは、基礎運動





として毎日、母音の力（あ・い・う・え・お）を声と身体で表現することを行っています。

教科書（谷川俊太郎）を読む



モモでは、言語造形や国語の教科書として谷川俊太郎の詩や教科書を用います。谷川氏は、シュタイナー同様、音が人間に対してもつ意味を深く理解しています。彼の言葉を読むことで、その音が子どもや私たちの心と体を整えてくれることが感じられます。

文字が書けた

文字の書けない子が文字のイメージを身体化するために、私たちは、①身体の原初体験、②フォルメン、③オイリュトミーを行い、すばらしい文章を声に出して読むことを毎日実践していきました。すると、実践開始から2週間後に驚くべき変化が起こりました。

いつも使う黄色の砂文字版に「何か書いてみる？」と尋ねると、「書いてみたい」と言っ、大きな文字で「おとうさん」と書いてくれたのです。これまでは「お」は空間のバランスが適切にとれず、「ん」は鋭角部分を書くことができませんでしたが、書かれた「おとうさん」はみごとな形とバランスです。それも、大好きな「おとうさん」の文字。私もつい、「すばらしい！書けたね！お父さん喜ぶだろうね」と驚いて伝え、本人も「本当！書けるようになった！」と満面の笑顔で誇らしげに返してくれました。



種が必要な栄養分をとりつづけることで、エネルギーを満たし、その力で芽が出、花が咲き、実がつくように、その子のうちに必要な「栄養」が心身に満ちて、「文字という果実」が結実したように思います。その日からは目を見張るほどの早さで、これまで書けなかった文字を書けるようになり、数週間ですべてのひらがなとカタカナをマスターできました。今日支配的な「認知に比重を置く教育」

では、この結果に至ることはむづかしく、シュタイナー的な人間洞察の有効性を強く感じました。



「天」と「地」の漢字も絵から学びます。



モンテッソーリの砂文字版も利用します。指先の触覚から文字をとらえていきます。



文字が書けるようになったら、本を読み、好きなフレーズを抜き出したり、お友だちに手紙を書いたりできるようになりました。



漢字もイメージを形にしていきます。このように学ぶことと、ただ漢字ドリルを行うこととは、子どもの学びの構えと血肉化に大きな違いがありそうです。

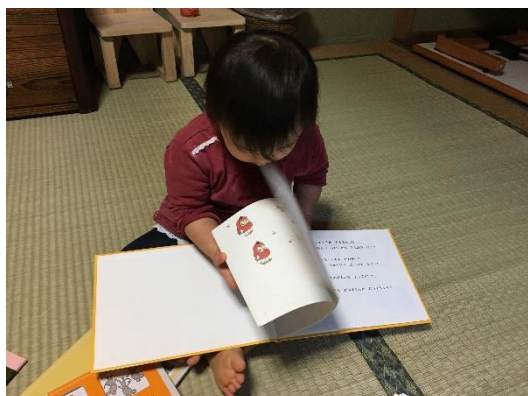
☆本読み

モモではモモ図書館の棚を作り、子どもたちの好きな本を並べています。とくに動物・草花・恐竜の本や、仕掛け絵本（シュタイナーが推奨）は子どもたちに大人気で、しばしば貸し出しをしています。テレビ



の映像が固定したイメージを外から一方向的に送ってくるのに対して、「本」や「素話」は子どもの内側からイメージを膨らませてくれます。シュタイナー教育では、力強く生きていくために、「内側からの力」を育てることに努めます。その最たるものが「イメージーション」や「ファンタジー（創

造的創造力)」です。私たち教師は、子どもたちが絵本や素話に「集中・没頭」している様子を見てみると、その子が将来、自分らしく力強く生きていく姿を想像することができます。



教師が語り聞かせをする場合、どのお話を選ぶかが重要となります。早期に知的な情報を与え分析的に説明すると、子どもは論理・懐疑・批判の精神を身につけますが、人をゆるしたり（寛容・共感の心）、物事の本質を総合的に洞察したりする精神の目をもつことができません。たとえば、幼少期から知育に偏った教育を受けたため、頭は優秀だがモラルに欠けるという子どものケースを教育の場でよく見かけます。

知情意・身体・モラルの総合的発達をめざすモモでは、発達に応じて自然な形でイメージネーションに働きかけるお話を選んで語り聞かせます。内容は、ファンタジー性のあふれるものから、子どもの道徳性に訴えるもの、文化や歴史について学ぶものなど年齢や発達に合わせて選びます。

とりわけ「帰りの会」で行うお話は、2から3週間くらい同じ内容をつづけます。同じお話を継続することは、子どものイメージネーションを強くしてくれます。いまは、日本神

話についての素話を人形や楽器を用いて行っています。子どもたちは素戔嗚尊^{すさのおのみこと}や天照^{あまてらす}

大神^{おおかみ}のお話が大好きで、小さな子どもは公園に行ったときも岩を見つけ、天岩戸の物語を自分たちで演じて楽しんでいます。

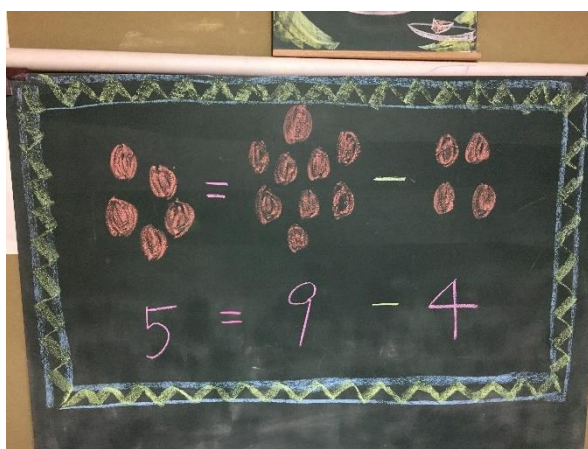
帰りの会でのお話



☆学習

モモでは学校の宿題に加え、各自の能力を補うため様々な教材や学習プログラムを用意しています。シュタイナー教育で見られる自然な素材を利用した教具はもちろんのこと、他には図鑑や歴史・地理カードやフラッシュカードなども利用します。また、国際的なコミュニケーション能力も身につけてほしいので、小学生以上には英会話も毎日行っています。





英会話の授業 ヒヤリング能力の高い子どもが多いです。



自然体験・観察

採ってきた栃の実で遊ぶ



草原を自転車で走る



作った竹とんぼを飛ばす



作った弓矢でごっこ遊び



モモでは、天気のいい日はほぼ毎日散歩や公園に出かけます。モモの子どもたちはそこで自然にたくさんふれ、様々な活動を行います。保護者の方からは、「モモに通うようになって自然の草花に興味をもつようになりました」「体力が見違えるほどつき、たくましくなりました」という声をよく聞きます。

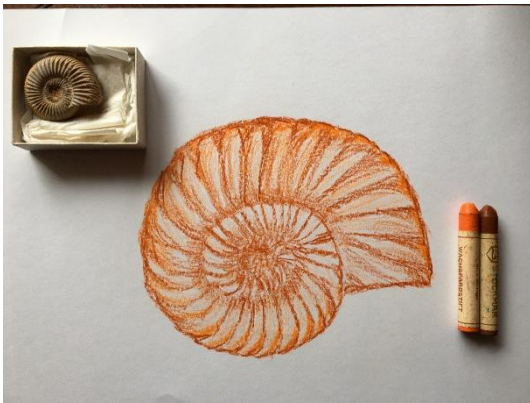
鉱物採集と観察

顕微鏡やルーペ
で見る美しい世
界に魅了される





採取した水晶



採取した日本式双子水晶

☆手仕事



かぶとと鯉のぼり作り



編み物

編み物の台を作り、それで毛糸のコースターを織ります。



IMG_4733.MOV



モモの花壇でとれた大根を料理



留学生の指導で中華料理に挑戦



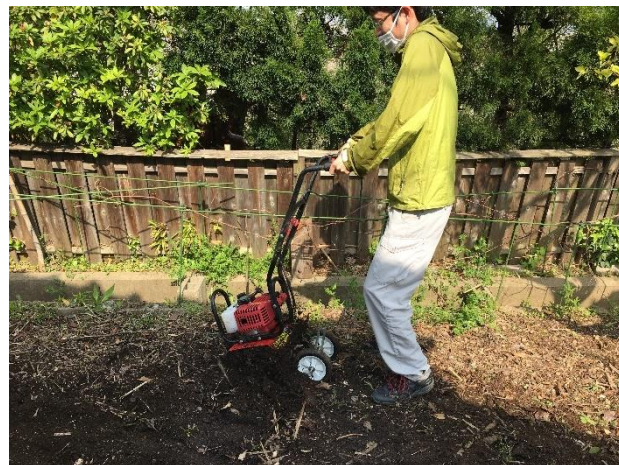
自然農業の畑作に挑戦

私たちのシュタイナー教育では、養蜂活動と自然農業に力を入れています。農業の方は、現在、モモの花壇と私の自宅の畑を利用して自然農業を行っています。土作りや肥料作りから行います。

粃殻で燐炭作り



ミニ耕運機で畑を耕す



畑に木灰を入れアルカリ性に





春の種播き



椎茸栽培に挑戦：子どもたちと椎茸の菌打ち



梅のへタ取り



芝生おこしと芝の種播き：種をまく人風



鳥の巣箱作り：小学生が巣箱の穴を開けるのを見つめる幼児さん

